

東海道随一の賑わい！

熱田・宮宿の様子をVR技術で復元！

○江戸時代の東海道

江戸時代、江戸の日本橋から京都の三条大橋を結んだ道を東海道といい、途中には53の宿場町が存在していました。

すごい賑わいでしょ！
当時は多くの人たちが
行き来していたんだよ！



熱田歴史資料室 編集加工

○東海道随一の賑わい・宮宿の再現

41番目の宿場町だった熱田の「宮宿」は、東海道と美濃路が合流する交通の要衝だったこともあり、その様子は「東海道随一の賑わい」といわれていました。熱田区ではVR技術を活用して賑わいのある江戸時代の宮宿の様子を再現していきます。

VR（仮想現実）ってなに？

「バーチャルリアリティ」の略で、専用のゴーグルやスマートフォン等の端末を通して、CGで作られた画像を見ることで、CGの世界が実際に存在し、そこに入り込んだかのような感覚を体感できる方法のことを指します。



VR技術で再現した宮宿の様子